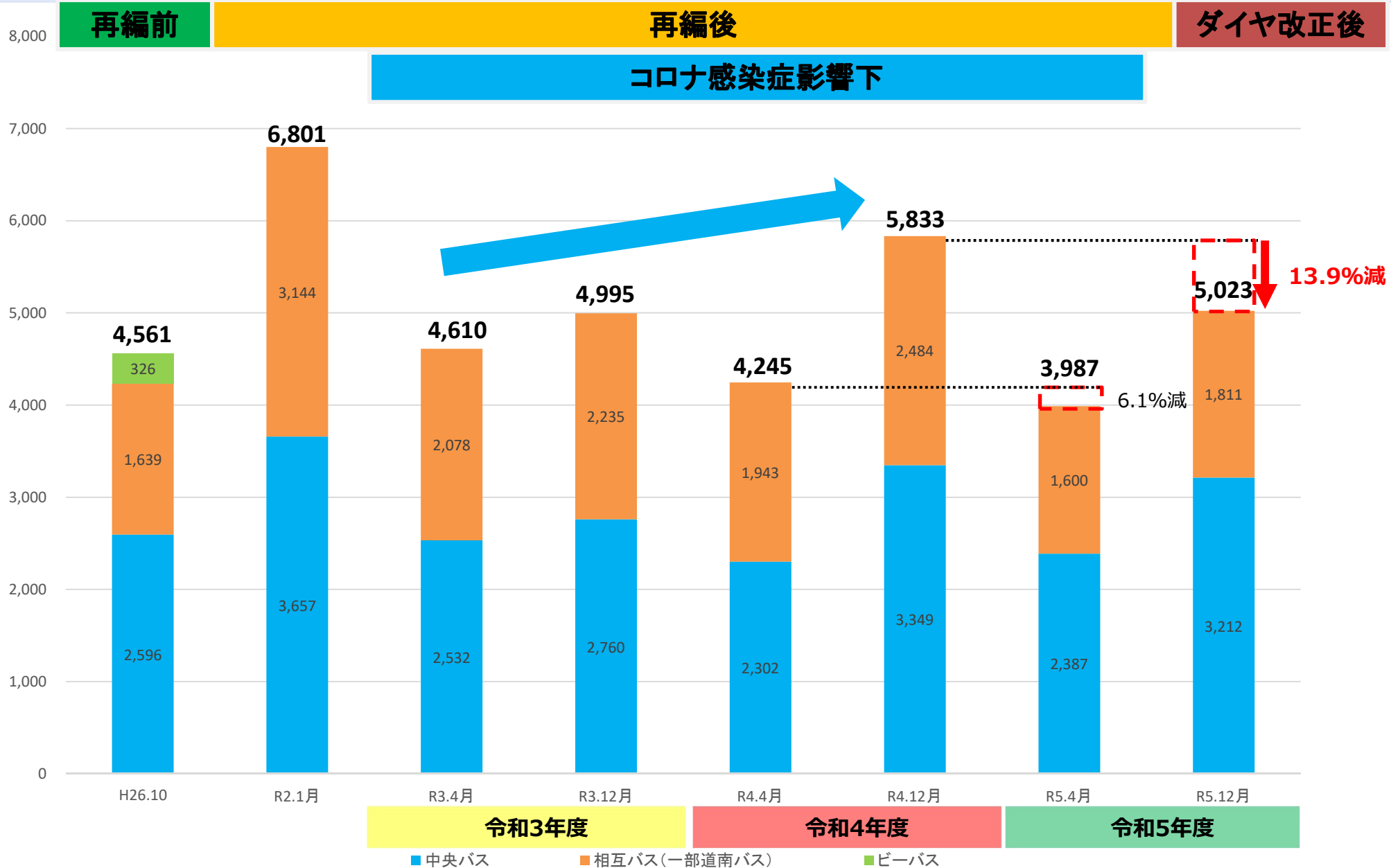


千歳市における 路線バスの利用状況について

市内路線バス利用者の推移（1日全便一斉調査）

単位：人



▶ 徐々に増加傾向であったが、令和5年度の調査では、昨年度と比較し、夏季は6.1%の減少、冬季は13.9%の減少となった。主な要因としては、減便の影響が考えられる。

キロ・便当たりの利用者数

※カッコ内は 前回（令和4年12月調査）数値との差

運行路線		利用者数(人/日)	営業距離(km/日)	便数	キロ当たり利用者	便当たり平均利用者
中央バス	稲穂団地線	546(▲43)	222.9	27	2.4(▲0.19)	20.2(▲1.6)
中央バス	桜木空港線	144(+26)	52.4	3	2.7(+0.59)	48.0(+8.7)
中央バス	桜木線	335(▲79)	257.0	21	1.3(▲0.24)	16.0(▲2.0)
中央バス	みどり台空港線	52(▲4)	28.6	2	1.8(▲0.13)	26.0(▲2.0)
中央バス	みどり台線	367(▲38)	186.1	25	1.4(▲0.10)	10.7(▲0.6)
中央バス	支笏湖線	183(▲5)	1,055.7	8	0.2(▲0.52)	22.9(▲0.6)
中央バス	新星空港線	720(▲6)	196.2	31	3.7(+1.88)	23.2(▲0.2)
中央バス	空港市内線	221(▲22)	71.6	15	3.1(+0.85)	14.7(▲5.6)
中央バス	東部隊線	732(+54)	275.3	43	2.7(+0.40)	17.0(+2.6)
中央バス	桜木長都線	12(▲20)	16.4	4	0.7(▲0.19)	3.0(▲1.0)
千歳相互バス	泉沢向陽台線	255(▲84)	240.9	20	1.1(+0.01)	12.8(▲0.9)
千歳相互バス	泉沢市民病院線	704(▲361)	554.6	34	1.3(▲0.15)	20.7(▲2.5)
千歳相互バス	図書館青葉線	277(▲62)	134.4	16	2.1(▲0.31)	17.3(▲2.6)
千歳相互バス	市民病院プール線	121(▲90)	102.8	13	1.2(▲0.47)	9.3(▲3.9)
相互・道南	勇舞空港線	454(▲76)	152.2	25	3.0(+1.53)	18.2(▲0.7)
合計		5,023(▲810)	3,547.1	287	—	—

▶ 桜木空港線及び東部隊線を除く全路線で利用者数が減少しており、特に千歳相互観光バスが運行する路線の減少数が大きい。空港を起終点とする路線でキロ当たり利用者、便当たり平均利用者ともに増加傾向となっている。

時間帯別利用者数推移（再編前とコロナ後）

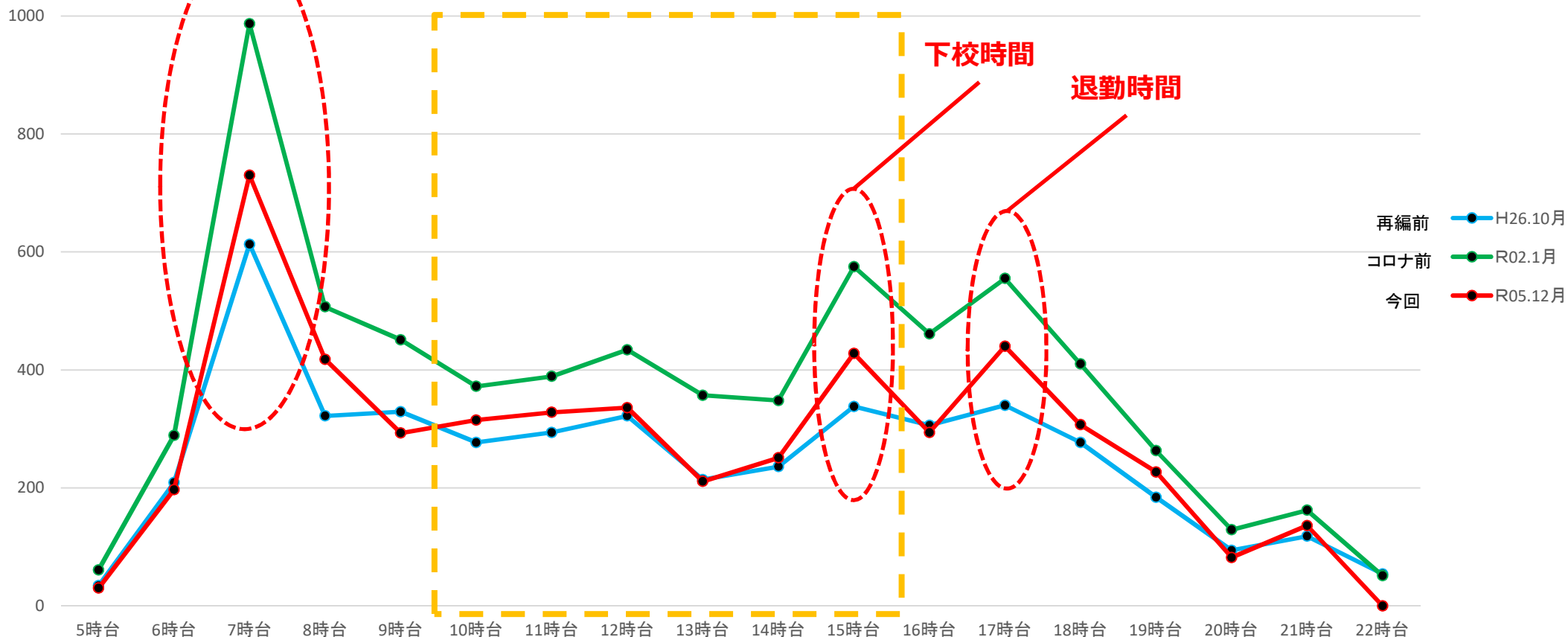
単位:人
1200

通勤・登校時間

シルバーおでかけパス利用可能時間帯

下校時間

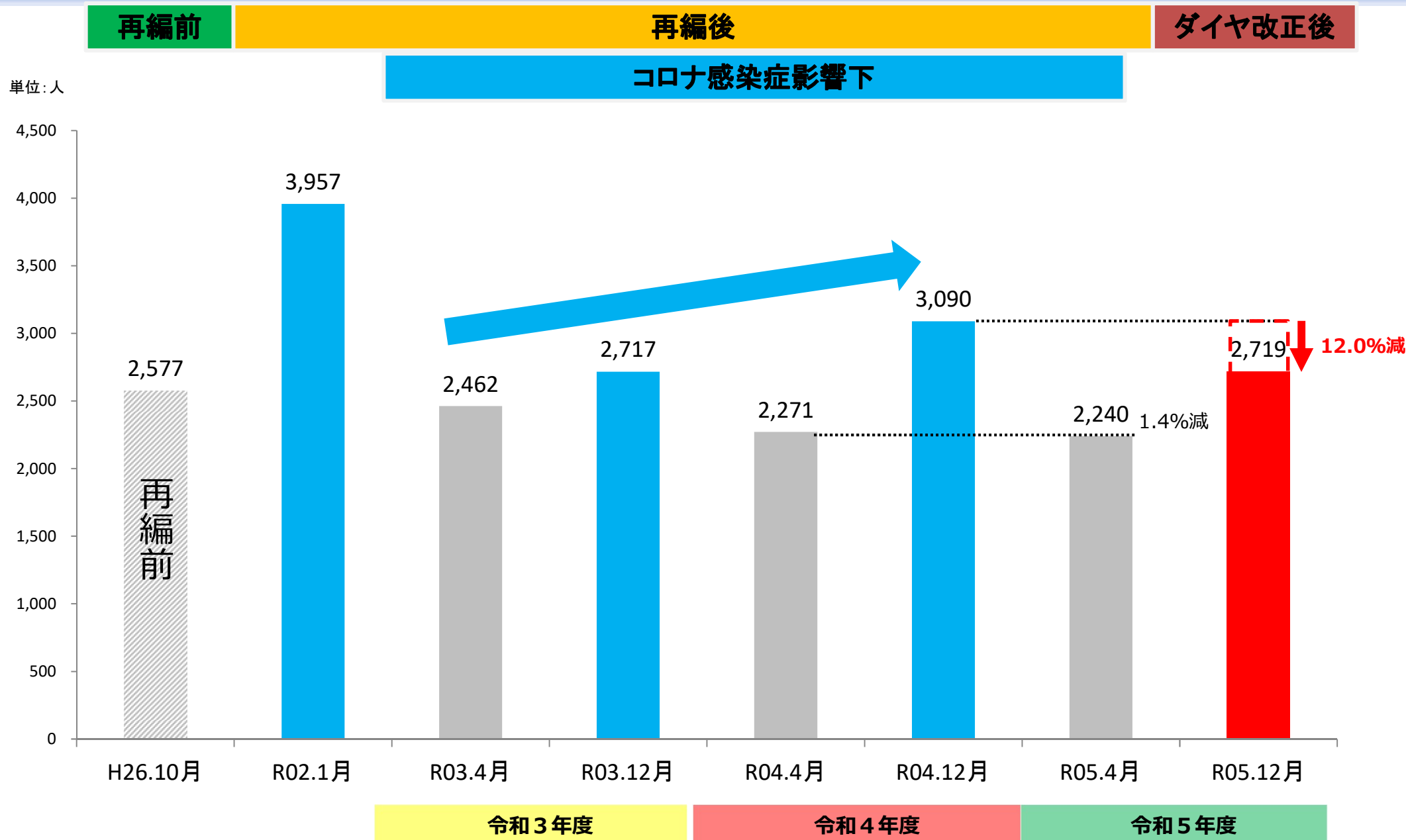
退勤時間



再編前 ● H26.10月
コロナ前 ● R02.1月
今回 ● R05.12月

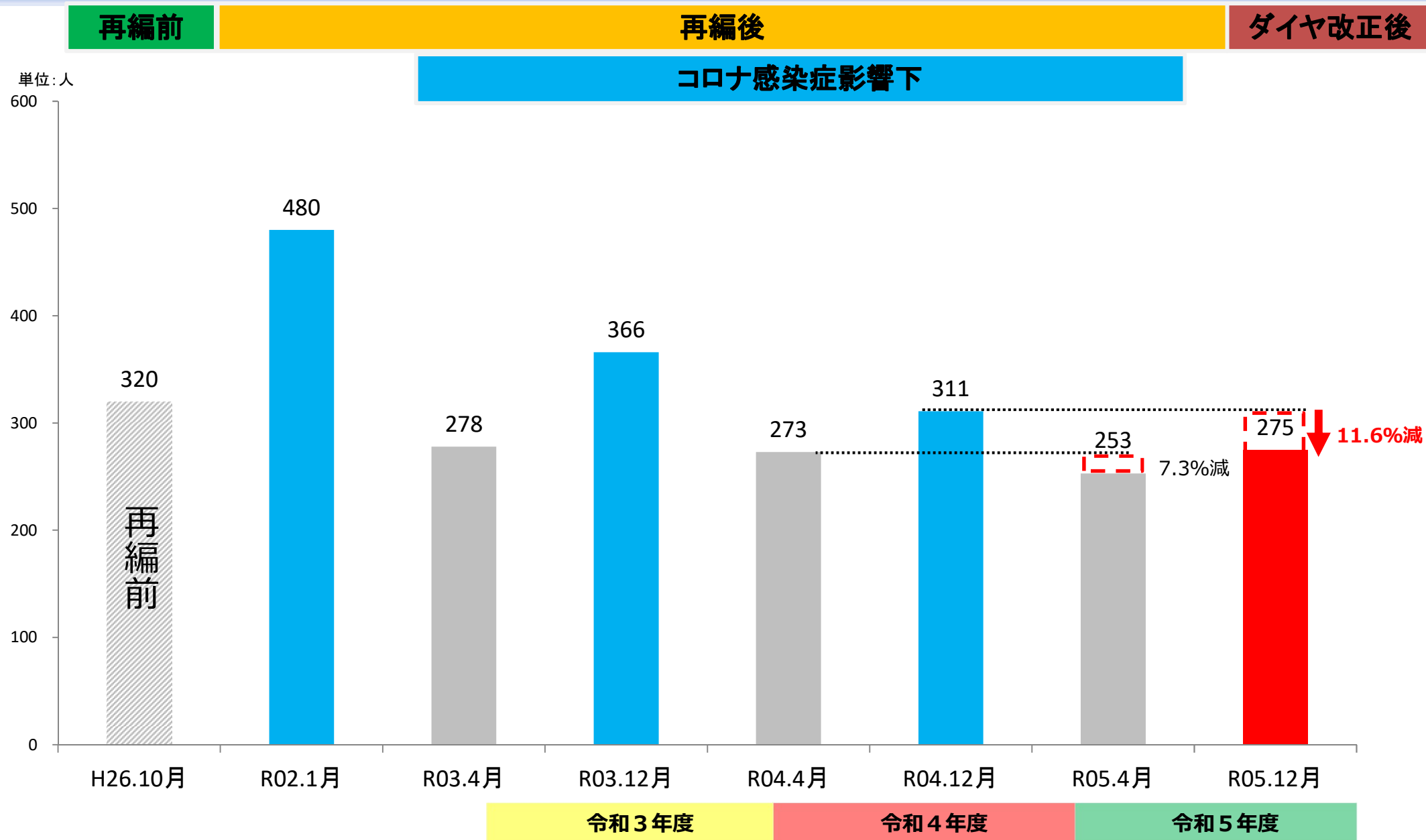
▶現状、再編前よりは利用者が増加している状況であるが、コロナ前の水準までは回復していない。

千歳駅 乗降人数比較



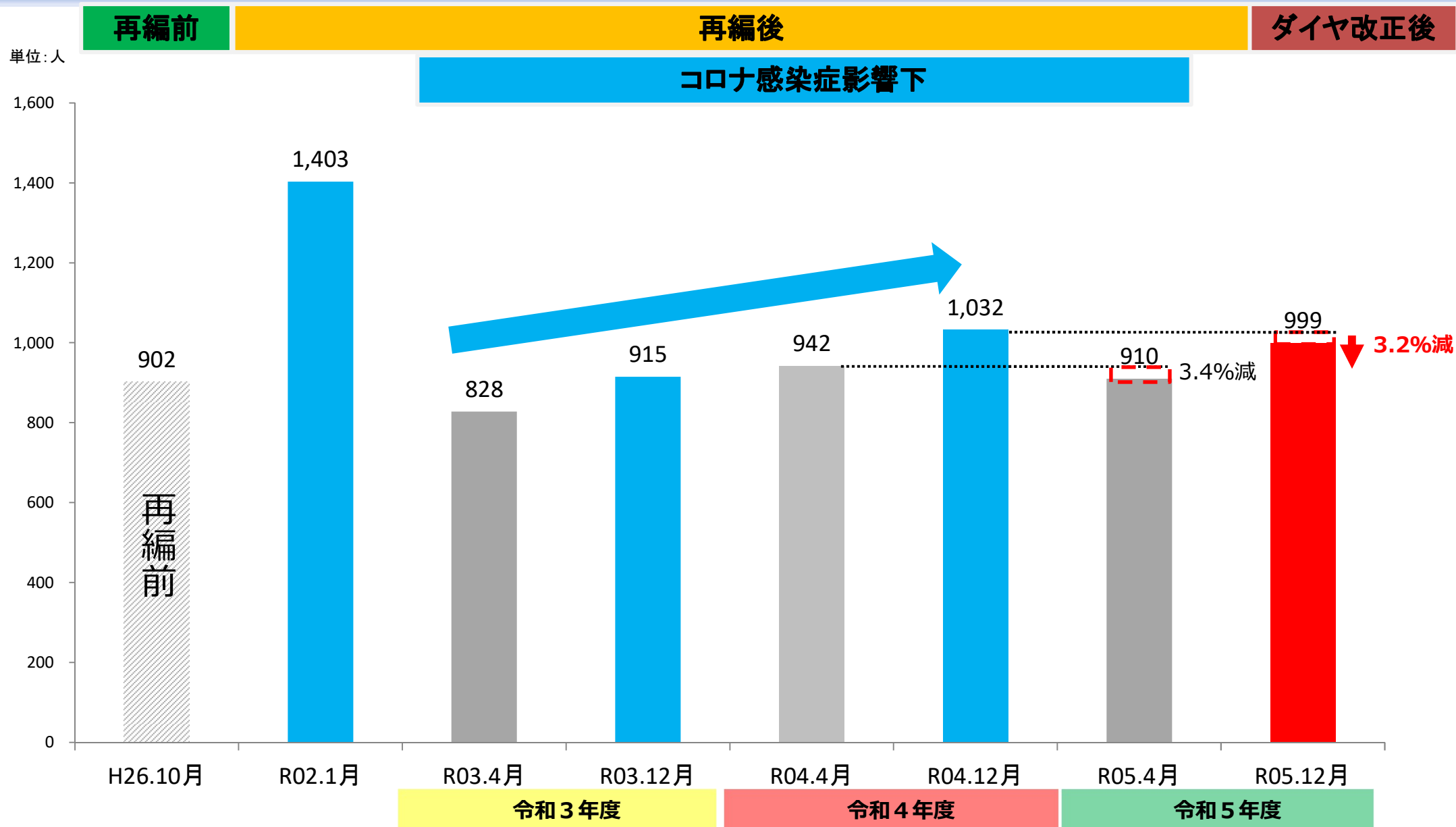
▶ 徐々に増加傾向であったが、令和5年度の調査では、昨年度と比較し、夏季は1.4%の減少、冬季は12.0%の減少となった。主な要因としては、減便の影響が考えられる。

市民病院 乗降人数比較



▶横ばいに推移していたが、令和5年度の調査では、昨年度と比較し、夏季は7.3%の減少、冬季は11.6%の減少となった。主な要因としては、減便の影響が考えられる。

新千歳空港 乗降人数比較



▶徐々に増加傾向であったが、令和5年度の調査では、昨年度と比較し、夏季は3.4%の減少、冬季は3.2%の減少となった。減便等の影響を受け、利用者が減少しているものの、千歳駅、市民病院の乗降人数と比べ、減少率が低い。